

令和7年度第4回府中市デジタル田園都市国家構想総合戦略会議 会議録

日 時：令和7年9月8日（月） 13：30～15：30

場 所：府中市役所4階 第一委員会室

会議要録	
次第	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市長挨拶</li> </ul> <p>2. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第2期総合戦略の子育て・教育分野の取組の振り返り</li> <li>○次期総合戦略で掲げる子育て・教育分野の施策の方向性と事業案</li> </ul> <p>3. 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局報告事項に対する意見・質問</li> <li>○子育て・教育分野の取組の方向性について</li> </ul> <p>4. 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○議長とりまとめ</li> <li>○副市長挨拶</li> </ul>
開会	
○市長挨拶	<p>皆さんこんにちは。暑い中お集まりいただきありがとうございます。府中市デジタル田園都市国家構想戦略会議も今日で4回目となります。前回の会議からは、現行戦略の分野ごとの成果と課題について振り返りながら、新たな戦略におけるプロジェクト展開についての議論が始まり、まず第1弾として産業分野に関する議論を行っていただいたところでした。</p> <p>その中で総合戦略をつくり上げる上で必要な視点として府中らしさの追求、また、多様な主体の協力など多数の重要なキーワードをいただいたところです。</p> <p>今回は、子育てと教育の分野についての議論となります。府中市では子育て分野において子育てにやさしいまちを目指し、妊娠出産から子育てまでを力強く支援して参りました。また教育分野では先進的な教育環境の構築を目指して、全校児童生徒へのタブレット整備や校務支援システムの構築といったデジタル化の推進やことば探究科のカリキュラム化、またコミュニティ・スクールの推進など独自の取り組みを充実させてき</p>

	<p>たところす。</p> <p>当市が今後も発展していくためには、これらの分野についてしっかりと課題を認識し、より多くの市民に必要とされる事態を検討していく必要があります。新たな戦略で掲げる誰もが活躍できるまちづくりにつなげていくためには何が必要となるか、皆様からのご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>本日も皆さんの知恵と経験をお借りして、府中市の未来に向けたよりよい戦略とプロジェクトを作り上げる場になることを願い、私からの開会の挨拶をさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしく申し上げます。</p>
報告事項	
事務局	(説明は省略)
協議事項	
委員①	<p>言葉の意味がよくわからないところがあるので教えてください。</p> <p>まずはコミュニティ・スクールというものが何なのか、次にヤングケアラー対策というものが何なのか、それからその中にある学校生活を送ることが困難な子供たちとはどういう意味なのかという3点についてお願いします。</p>
事務局	<p>コミュニティ・スクールに関しては、現在市内の各学校にPTAをはじめとする地域の方が集まって、それぞれが学校運営協議会という組織を立ち上げており、その方たちが一緒に地域を巻き込んでこの学校をどうしていこうかというような会議をされています。</p> <p>つまりこの学校を良くしていくために地域の方も巻き込んで推進しているものをコミュニティ・スクールと呼んでいます。</p>
委員①	巻き込んで何を推進しているのでしょうか。
教育長	<p>コミュニティ・スクールは法的には設置が努力義務になっています。</p> <p>それで、例えば校長先生が作った年間計画を「学校運営協議会」という地域の方や保護者が集まる組織に意見をもらい、それをもとにみんなで学校を作り上げていこうという取り組みです。</p> <p>これまでのPTAはどちらかというと子どもたちを見守るような活動でしたが、コミュニティ・スクールはさらに踏み込んで学校としてどんな方針で子どもを育てていくかということを地域の方や保護者、場合によっては企業の方も加わって話し合っていく仕組みです。府中市ではそういった皆さんが集まる「学校運営協議会」で校長先生の年間目標を承認していただきながら、学校と協議会が一緒になって学校教育を作り上げていこうとしています。</p>

	<p>それだけでなく、府中市ではさらに新しい取り組みも始まっていて、子どもたち自身が「コミュニティ・スクール推進委員会」というのを作り主体的に新しいことに挑戦しています。それを地域の大人たちがいろんな形で支援して、その活動を学校運営協議会の方たちにもサポートしていただいています。ですので、学校と地域がしっかり手を組んで、みんなで一緒に学校を作り上げていく仕組みだと思っていただきたいです。</p>
委員②	<p>各学校では、それぞれの校長や先生の方針に基づき独自の活動を進めています。例えば、明郷学園では8年生が主体となり、学内で模擬会社を運営する取り組みを行っており、地域の保護者だけでなく企業の方々も先生とともに指導に関わっています。また、私が関わっている国府小学校では、文化祭である「国府演 JOY 祭り」を地域の公民館祭と合同で開催し、学校単独だった行事を地域と連携することで交流を深めています。このように各学校の取り組みは異なりますが、学校運営協議会がそれぞれの活動を支える役割を担い、校長の年間方針をもとに地域と協力して学校運営が進められています。</p>
委員③	<p>栗生小学校の学校運営協議会では、地域と学校が協力して取り組んできたことがいくつかあります。例えば、今では当たり前になっている「虫送り太鼓」を子どもたちが叩くという伝統は、数年前に地域の方々が学校に働きかけて一緒に実現したものです。祭りを存続させるために子どもたちに参加させたいという強い思いから、困難な状況を乗り越えて実現した経緯があります。また、校長先生が「こういう子どもたちを育てたい」という教育方針を示すと、地域の住民や友人の立場から率直な意見を述べ合い、一緒に子どもたちを育てていく取り組みも行っています。</p>
教育長	<p>ご意見ありがとうございます。いろいろな形で関わってくださっている皆様の声をいただきましたが、府中市の学校運営協議会は、ただ組織を作って校長が示した方針について会議をして終わりという形骸化に陥らないところには特に素晴らしい点があると思っています。府中市では、実際に「子どもをどう育てていくか」という本質的な部分で地域の方々に積極的に深く関わっていただいております、これが非常に先進的だと思っています。</p>
委員④	<p>栗生小学校の虫送り太鼓について補足させていただきます。10年前、子どもたちにこの伝統を継承させたいという思いがあった一方で、大人の間では「壊したらどうするんだ」という声上がり、保護者の方々から反対される場面がありました。その状況を乗り越えるために、県の宝くじの補助金を活用して、11校分の太鼓を購入し、子どもたちに虫送り太</p>

	<p>鼓を継承する仕組みを整えたという経緯があります。この取り組みをきっかけに、子どもと大人、学校の先生が無理に要請されるのではなく、自然に集まってお祭りや夏祭り、運動会、さらには町内運動会などが行われるようになりました。このような地域と学校の自然な連携が生まれたのは、コミュニティ・スクールの取り組みがあったからこそだと思います。</p>
議長	<p>ということは、その地域の行事を学校でやるのがコミュニティ・スクールという認識でよいでしょうか。</p>
教育長	<p>それはコミュニティ・スクール活動の一つの形だと思っています。地域と学校が、校長を中心に教員とともに子どもたちを育てる仕組みを作り上げているのがコミュニティ・スクールの特徴であり、学校だけでなく地域と一緒に学校を運営していくというスタイルを目指していくべきだと思います。</p>
議長	<p>コミュニティ・スクールは教科教育としてどういった形で扱われるのでしょうか。</p>
教育長	<p>コミュニティ・スクールの具体的な活動として、地域の方々の知識や技術を活かした授業の取り組みがあります。例えば、家庭科の授業で裁縫や着物に関する内容を扱う際、地域でそうした技術を持つ方に協力をお願いし、その方々が授業に直接関わり子どもたちに教えるという形です。このように、地域の力を活用して学びを深める仕組みは、コミュニティ・スクールの一つの形であり、さまざまな教科で応用できるものだと思います。</p>
事務局	<p>2つ目の質問についてですが、ヤングケアラーとは、本来保護者が行うべき家事や介護、医療ケアなどを日常的に、または過度に担っている子どもたちのことを指します。これ自体が悪いというわけではありませんが、その負担が原因で学業に支障をきたす場合には、経済的な支援や相談といったサポートが必要になると考えています。</p> <p>3つ目の学校生活を送ることが難しい子どもたちについてですが、心の不安や悩み、家庭環境の問題などが原因となり、不登校の状態になっている場合があります。そういった子どもたちに対して、安心して過ごせる居場所を提供することが大切だと思います。</p>
教育長	<p>具体的には、不登校の子どもたちに向けた教育支援の仕組みについてです。学校内で教室に入れないうちには、まず教室以外で過ごせる居場所を用意する取り組みがあります。それでも学校に行けない場合には、学校以外の学びと息抜きができる居場所を提供することが重要だと考えています。例えば、教育センターの2階に教育支援センターを設置</p>

	<p>しており、子どもたちが安心して過ごせるような環境を整えています。また、距離的に離れている上下地域では、その地域の中学校にも同じように居場所を用意することで対応しています。このように、地域ごとの事情を考慮しながら教育支援センターを運営しています。</p>
委員⑤	<p>学力学習状況調査についてですが、目標値には達していないものの、明郷学園では中学3年生の学力が全国平均より高く小学6年生の学力が逆に低いという結果が出ています。この傾向は通常と異なり、関西大学の教授からも「逆転している点は非常に素晴らしい」ことだという話を伺いました。そのため、調査の数値だけで評価するのではなく、各学校の独自の取り組みや、それによる子どもの成長をしっかり評価につなげる仕組みが必要だと思います。学校教育の本質は子どもの成長だと考えていますので、それを測れるような方法を取り入れていただきたいです。</p> <p>また、情報発信の強化についてですが、入学生が7人と少なかった明郷学園では、模擬会社などの活動や学校そのものの存続が危ういという危機感があります。情報発信は単に活動を紹介するだけでなく、「教育移住」や「選ばれる学校」を目指すような方向性で行うべきだと思います。発信が目的化してしまうとSNSや広告などの形式的な取り組みに終始しがちですが、明郷学園のような課題解決を目的とした情報発信をすることが大切です。コミュニティ・スクールの取り組みも、生徒がいなくなれば存続できません。全国から注目されているこのモデルが「頑張っていたけど結局なくなった」とならないよう、具体的な解決策を伴う情報発信をしていく必要があります。</p> <p>さらに、模擬会社の取り組みが他の学校にも展開できればと考えています。多くの学校が「自分のところでは難しい」と感じてしまう現状がありますが、良い取り組みが特定の人物や環境に依存することなく、全校に横展開できるような仕組みを作ることが重要だと思います。他の学校でも素晴らしい取り組みをされていますので、それらを広げるための具体的な事業を検討していただけると良いと思っています。</p>
議長	<p>情報発信は非常に重要だと思いますが、現状では教育は教育だけ、移住定住は移住定住だけ、雇用は雇用だけ、といったように個別に発信されていることが非常にもったいないと感じています。例えば、移住を考える人に対して「教育環境が良い」「働き口もある」といった情報がまとまって伝われば、「じゃあ府中市に住もう」と繋がる可能性が高くなるはずです。そういった観点で、これらをうまく結び付けて発信する仕組みを作るべきだと前々から思っていました。</p> <p>また、大都市では縦割りの組織が障壁となり、こうした連携が難しいとい</p>

	<p>う課題があります。しかし、府中市は町としても行政組織としても非常にコンパクトなので、各分野をうまくつなげることが可能だと思います。その強みを活かせば、府中市ならではの魅力的な情報発信ができるのではないのでしょうか。情報発信の強化は非常に大切だと感じますが、具体的にどう強化していくかについては、皆さんで知恵を出し合い、アイデアを集めながら進めていければ良いと思います。そうすれば、より効果的な情報発信が実現できるのではないかと考えています。</p>
<p>委員②</p>	<p>情報発信についてお話をさせていただきます。PTA では市 P 連と連携し、インスタグラムを活用した情報発信を進める取り組みをしてようと考えており、現在、アカウントを作って準備を進めています。行政が行う情報発信と PTA が行う情報発信はそれぞれ意味や効果が異なると思いますが、行政、民間、PTA がそれぞれ独立して縦割りで動いてしまうと、効果が限定的になる恐れがあります。せっかくの SNS を活用するのであれば、連携し、相互にリンクし合うことで相乗効果を生み出せる仕組みを作ることが大切だと思います。</p> <p>また、府中市は人口減少という課題がありますが、個人的には府中市にはまだ十分な魅力が残っていると思っています。例えば、住みやすい町という方向性を目指すことが可能ではないかと感じています。お年寄りの割合が若干多いものの、孫やひ孫を身近に見ることができる環境がある点は非常に魅力的です。実際に、I ターンで府中に移住してきた方から仕事の相談を受けることがあります。例えば、東京で SE として働いていた方が奥さんの実家を頼って府中に戻ってきたものの、働き口が見つからない、あるいは起業を考えながらも悩んでいるというケースがありました。こうした方々に「府中でも十分に可能ですよ」と話をしていますが、情報発信が不足しているため、地域の可能性が伝わっていない部分があると感じています。</p> <p>さらに、府中市で行われているラボ活動に福山や尾道から参加される方もいますが、「府中って良い町ですね」という声を聞くことも多いです。福山や尾道では体験できない魅力が府中にはあるのに、府中の住民自身がその情報を十分に知らないこともあるのではないかと思います。地域内外の情報をもっと効果的に共有し、周辺地域とも連携しながら発信力を高めていくことが重要だと思っています。府中市の可能性をさらに引き出すために、みんなで知恵を出し合い、一緒にアイデアを形にしていければと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>情報発信の強化についてですが、皆さんのお話を聞いて改めてその重要性を感じています。ただし、「行政が頑張るって情報を発信します」という</p>

	<p>ような形式的なものではなく、府中市ならではの効果的な情報発信のあり方を考えるべきだと思います。例えば、府中市の情報発信について皆で協議するワークショップのような場を設け、アイデアを出し合いながら方向性を決めていくという取り組みができれば、より良い情報発信につながるのではないかと感じました。このような形で進めていくことが府中市にとって有益だと考えています。</p>
<p>委員⑥</p>	<p>情報発信についてですが、これまで行政と関わる中で、観光や情報発信課のように担当部署が限定されていることを感じてきました。しかし、「学ぶ」「働く」「暮らす」といった要素を1つのセットとして統合し、どこでも見られる形で情報発信を進めることが重要だと考えています。例えば、NEKIなどでコミュニティ・スクールの活動を映像で紹介し、さまざまな世代が関わっている様子や移住者が増えていること、周辺の新しい施設なども含めて発信することで、府中市の魅力が一目で分かるような取り組みができれば良いと思います。これを移住フェアや東京でのイベント、ホームページなどで定期的に発信し、中の人にも外の人にも府中市の魅力を知ってもらい、住民の誇りにもつながるような仕組みが必要だと感じています。</p> <p>また、コミュニティ・スクールについてお話を聞いて、既にその中に多くの学びの要素や全国的に注目される先進的な取り組みがあることを知り、大変素晴らしいと感じました。例えば、防災マップを作成したり、大人と子どもと一緒に商品企画を行ったりする活動など、こうした事例は市の情報発信においても大きなアピールポイントになると思います。さらに、13ページに新規で掲げられている「生涯学習大学の構想」についても興味深い内容だと感じています。府中市が掲げるこの構想をどのように実現し、コミュニティ・スクールの要素や市の魅力と結びつけていくのかについてぜひお考えをお聞かせいただければと思います。府中市が全国的に注目され、住民の誇りを深めるような情報発信と取り組みを、みんなで進めていければと思っています。</p>
<p>教育長</p>	<p>現在、「生涯学習大学（仮称）」という構想を進めていますが、この取り組みについてご説明します。府中市では、コミュニティ・スクールや小中一貫教育など、子どもに関する教育が非常に進んでいると感じています。このような取り組みを基盤にしながら、人生100年時代に向けて、生涯を通じて学び続ける仕組みを作りたいと考えています。</p> <p>これまで、年配の方を中心にした講座は「老人大学」という名前で開かれていましたが、現在は「いろどりカレッジ」に名称を変更しています。ただし、参加者の層がまだ広がっておらず、年配の方に限定されて</p>

	<p>いる状況です。また、講座内容も単発的で系統立てられていないため、学びの機会としては少しもったいないと感じています</p> <p>そのため、学校教育を終えた後も、市民が自発的に学びを深めたり、新しいスキルを身につけたりできる仕組みを作りたいと考えています。昨年から種まきの活動として、市民が集まって「こんな講座があればもっと参加者が増える」「自分たちでこういう講座を作って運営してみたい」といったアイデアを出し合うワークショップを開催しています。まだ実現には至っていませんが、こうしたアイデアを講座として形にし、さらに参加者が講師として新しい講座を生み出すという学びのサイクルを作りたいと思っています。</p> <p>具体的には、起業のための講座に子どもも大人も一緒に参加するなど、世代を超えた学びの場を構築していきたいと考えています。このような学びを通じて、府中市がさらに豊かで活気ある地域となることを目指しています。ぜひ、この構想が進むことで、市民が主体となり新しい価値を生み出せる仕組みになるよう取り組んでいきたいと思っています。</p>
委員⑦	<p>生涯学習が公民館活動を通じて主体的に進められている点については十分理解しています。しかし、最近では地域の担い手、例えば町内会の役員や民生委員・児童委員などが果たす役割が重要となってきていると感じています。国の方でも公民館を生涯学習の場としてだけでなく、地域の関わりや支援の拠点として強化していくという方針が示されています。</p> <p>そこでお伺いしたいのですが、現在進められている「生涯学習大学（仮称）」の構想の中に、こうした地域の担い手や地域との連携に関する視点が含まれているのかどうか、その点についてお聞きしたいと思っています。地域とのつながりを意識した学びの場が含まれるかどうかは、非常に重要なポイントだと考えています。</p>
教育長	<p>現在のところ、具体的な実施内容が確定しているわけではありませんが、皆さまがおっしゃるように、さまざまな課題を解決するためには、いろいろな公的機関が連携することが非常に重要だと感じています。構想の中で「これを含めない」といった限定的な考え方ではなく、幅広い可能性を持たせながら検討を進めていくことが大切だと思っています。そのような柔軟な姿勢で構想を形にしていきたいと考えています。</p>
委員⑦	<p>先ほどからコミュニティ・スクールについてお話が出ていますが、積極的に取り組みを成功させている学校がある一方で、なかなか地域や学校が関わっていない場所もあると感じています。こうした格差を解消するために、成功事例を他の地域や学校にどのように横展開していくか、そ</p>

	<p>の具体的な方向性を明確に示し、実践していただきたいと思います。</p> <p>また、コミュニティ・スクールや公民館など地域が主体となって進める取り組みについては、公民館の役割が非常に重要であると教育長もおっしゃっていました。そのため、地域のにぎわいや子どもの育成を考えると、縦割りの仕組みではなく、横の連携をしっかりと取ることが必要だと思います。地域全体で協力し合うために、具体的な計画を示していただけることを期待しています。</p> <p>さらに、上下高校についてですが、今年度の取り組みとして13人の下宿先を整備し、それにより13人の入学者を確保したという成果が示されています。ただし、これは特別なケースではないかと感じており、この結果を成果として示すことには疑問があります。特に、その背景事情については詳しく知らない委員の方も多いため、整理をしていただく必要があると感じます。</p> <p>その上で、上下高校だけでなく、府中市内のすべての高校の魅力化を進める取り組みについても検討していく必要があると考えています。</p>
議長	<p>下宿先を整備による入学者の確保は特殊なケースではないか、との話がありましたので事務局から補足説明をお願いできますか。</p>
事務局	<p>上下高校の存続についてですが、生徒数の減少を受けて県の教育委員会から要件が示された中で、上下高校の野球部がその要件を満たすための特別な役割を果たしました。その背景には、地域おこし協力隊として府中市に来られた瀬尾さんの存在があります。瀬尾さんは元々YouTuberであり、現在は上下高校の野球部監督として活動されています。その活動の中で各地を飛び回り、多くの地域から生徒を呼び寄せることに尽力され、さらに自身の資金で練習場を整備するなど、環境を整えながら熱心に取り組まれました。その結果、野球部への入部を前提に生徒を確保し、学校存続の要件をクリアすることができたという特殊な事情があると認識しています。</p>
委員①	<p>教育を充実させることは非常に重要だと思っています。その中で「誰一人取り残さない」という理念に基づき、すべての子どもたちに平等に教育の機会を提供することはもちろん、子どもたちの個性を育てていくこともまた大切なテーマだと感じています。スポーツや音楽、理系、文系など、子どもたちにはさまざまな個性や得意分野があり、それぞれに合った教育をどう実現するのかを考える必要があります。これは、いわばエリート教育の視点も含めて教育の場で議論していくべき課題だと思います。</p> <p>また、行政が提供する教育だけでなく、塾など民間の教育機関も含め</p>

	<p>て、府中市に住む子どもたちがどのような教育を受け、どのように成長していくかという点を考えることが重要だと感じています。公共の学校だけで完結するのではなく、塾やその他の教育の場も視野に入れて、幅広い育成の仕組みを考えるべきではないでしょうか。</p> <p>そのため、私たちが通常対応している行政の枠組みだけでなく、もっと広い範囲を捉え、連携を深める必要があると思います。教育の充実には幅広い視野を持つことが求められると感じていますが、この点について皆さまのご意見も伺いたいと思います。</p>
教育長	<p>非常に難しい課題だと思いますが、おっしゃる通り、子どもを育てる場は学校だけに限られるものではありません。コミュニティ・スクールなどを通じて、地域の方々が子どもを見守りながら共に育てているという実態があります。そのような多様な視点を踏まえながら、子どもたちの教育を考えていく必要があると感じています。</p> <p>現在、「個別最適な学び」という方針が掲げられていますが、子どもたちの特性に応じた教育が非常に重要です。例えば、計算が得意な子どもや、特定の分野に突出した能力を持つ子どもに対して、その特性をどう育てるのかは、国全体でも議論が進んでいるテーマです。現状では、教育委員会の画一的な教育の枠組みの中で、習熟度別や進度別での学びが提供されていますが、自由進度での取り組みがはたから見ると自習のように見えてしまうこともあり、それが最善の形なのかどうかは課題として残っています。</p> <p>さらに、通学が難しい子どもたちへの対応も重要であり、学校外での居場所を提供することが求められる場面もあります。こうした子どもたちを支えるためには、学校組織としての取り組みに加え、外部の機関との連携もどこまで実現可能かを検討していく必要があると感じています。現時点では具体的な解決策や方針を示すのが難しい部分もありますが、子どもたちの可能性を最大限に引き出すために、あらゆる選択肢に目を向け、工夫をし続けていくことが重要だと思います。引き続き皆さんとともに、実現可能な取り組みを探りながら進めていく必要があると考えています。</p>
委員①	<p>東京のような大都市では、さまざまな教育資源がある一方で、地域全体で子どもを育てるのは難しい面もあるかと思います。しかし、府中市は幸か不幸か小さな町です。そのため、学校や教育の場が限られている分、地域全体を見渡しながら子どもたちを育てる役割を明確にし、コミュニケーションを通じて連携を深めていくことが可能だと思います。また、特別な才能や優れた個性を持つ子どもがいれば、その力を最大限</p>

	<p>に伸ばせる方法を具体的に考え、実践していくことが求められていると感じています。現在、「個性を伸ばそう」という方向性が掲げられている一方で、実際にはまだそれが十分に実現できていない部分があるのではないのでしょうか。府中市ならではの規模感を活かしながら、こうした課題に取り組む余地があると感じていますので、今後のご対応に期待しています。</p>
<p>委員②</p>	<p>ラボでロボットプログラミング教室を運営していますが、現在8名の子どもが参加しており、その中にはとても興味を持って意欲的に取り組む子どもたちがいます。特に、支援級の子どもの3名参加しているのですが、彼らが驚くほど伸びる様子を見て、個性や才能の可能性を改めて感じています。例えば、学校では下を向いているような子でも、プログラミングではダントツの成果を出すことがあり、通常の枠組みに収まりきらない才能を持つ子どもたちをしっかりと伸ばしてあげることが大切だと思っています。府中市はコンパクトな町だからこそ、こうした才能を持つ子どもたちを拾い上げるチャンスがあると感じています。</p> <p>また、過去にプログラミング教室に参加してくれた子どもたちの中には、府中市を超えて英数学館に進学するなど、さまざまな可能性を広げた子どもたちもいます。こうした経験を踏まえ、府中市だからこそできる個々の才能を伸ばす仕組みをさらに整えていけたらと思っています。一方で、プログラミング以外の話になりますが、商工会議所青年部では、新しい動きとして、受験経験のある親御さんが子どもたちに教える場を提供しようというアイデアが出ています。例えば「私は国語を教えられる」「英語を教えたい」という声を持つ30代の若い親たちがいます。この町だからこそ、地域の横のつながりを活かした新しい形の塾を作ることができるのではないかと感じています。こうした取り組みが実現すれば、府中市の教育がさらに豊かになる可能性があると思います。</p>
<p>委員⑧</p>	<p>先ほど話があった個性を伸ばす教育ですが、それを生涯学習大学構想の中に取り入れてみるのも良いのではないかと感じています。市の公的教育、特に義務教育の枠組みではこうした取り組みを進めるのは難しい面があると思います。そのため、市民大学的な場で高齢者やミドル世代を含めて、これまでの経験や専門的な知識を活かせるような仕組みを作ることが、市民の多様な力を引き出す方法として効果的ではないのでしょうか。こうした取り組みが広がれば、生涯学習大学構想の価値がさらに高まると思います。</p> <p>ただし、そのためには目的を明確にする必要があります。これまでの老人大学のように一方的な講演形式では限界があると感じています。現</p>

	<p>在、「いろどりカレッジ」に名称が変更され、市民大学講座的な趣旨で進められていますが、60歳以上の高齢者を対象に限定されている点があるので、「いろどり」という言葉が持つ意味合いをさらに広げ、世代や背景を問わず参加できるような方向性を検討するべきではないかと思えます。また、先ほど話に出たエリート教育的な取り組みも、この構想の中に織り込むことでさらに充実した内容にできるのではないかと期待しています。ネーミングも含め、構想の具体化を進めていただきたいと思います。</p> <p>次にデジタル化推進の項目についてですが、特に「AIの活用」に注目しています。AIはすでに社会の中で幅広く活用されており、これからの若い世代にとっては避けて通れない技術だと思います。そのため、中学校や義務教育後期課程の技術科目にAIを組み込んだ授業を取り入れることが必要になってくるのではないかと考えています。</p> <p>ただ、AIの指導を行う上で教職員がすぐに対応するのは難しい場合もあると思いますので、府中市が包括連携協定を結んでいる大学や企業、専門機関などの力を借りることで、指導や環境整備を進めていく方法が効果的ではないでしょうか。こうした取り組みが、生徒たちがAI技術を学びやすい環境を作り、未来に向けて必要なスキルを習得するための支援につながると考えています。</p> <p>以上の2点、生涯学習大学構想とAI活用について提案させていただきました。それぞれが府中市の教育において大きな発展を促す取り組みになることを期待しています。</p>
<p>委員⑤</p>	<p>私も府中明郷学園のコミュニティ・スクールに関わらせていただいているのですが、とても多くの学びがあります。実はこの後、ドローンやプログラミングを活用した授業を担当する予定なのですが、教える側に回った時、自分自身の学びが非常に大きいと感じています。ただ単に教えるのではなく、生徒が自分で興味を持ち、学んでいける環境をどう作るかを模索するプロセスそのものが、自分自身の学びにもつながっています。この経験は、生涯学習や社会教育としての側面を持っているのではないかと感じています。</p> <p>このように、地域の方々が年齢問わず学校に入り込み、教える側として授業に関わることで自身の学びが深まり、また自身のスキルや経験を発揮できる場があることは非常に意義があると思います。こうした取り組みをコミュニティ・スクールの枠組みと結びつけ、生涯学習大学構想の中で発展させることも可能ではないかと感じました。</p> <p>また、授業を通じて感じた課題として、動画編集をしたいという生徒が</p>

	<p>いた際に、タブレットのスペックが不足しているため動画が止まるという場面がありました。意欲的に取り組もうとしている子どもたちに対して、必要な環境を整えることが非常に重要だと思います。例えば、全員にスペックの高いパソコンを配るのは難しいかもしれませんが、学校にそういった設備を整えることで、やりたいことに挑戦できる環境を作る必要があると感じています。また、タブレットの老朽化も問題になっているため、アップデートや設備改善を進めていただければと思います。具体的には、Chromebook では動画編集ができない現状があるため、こうした部分を改善していただきたいです。</p> <p>さらに、AI の活用についても感じるがあります。「明郷タイム」でゲームを作りたいという生徒がいた際、背景画像を作るために AI を活用しましたが、知識がある人ならスムーズに取り組める一方で、先生方にはまだ慣れていない部分があると感じました。地域の方々が学校に入り込み、AI 化の取り組みを支援することで、こうした課題を解決できるのではないかと思います。実際、私自身も先生向けに生成 AI の講座を行った経験がありますが、地域で AI を普段仕事で使っている方々が学校に関わることで、さらに取り組みを進めることが可能だと考えています。</p> <p>このような形で、地域の力を活用しながら教育の充実を図り、生徒の可能性を最大限に引き出す仕組みを作ることが重要だと思います。これからもこうした取り組みを積極的に進めていただければと思います。</p>
<p>委員⑨</p>	<p>今回の話題は、まさに私自身の状況に重なる部分が多く、とても関心を持っています。現在、私の子ども 3 人を子育て中ですが、その中の 1 人は発達障害を抱えており、府中市での教育環境に課題を感じています。発達障害については、保育所時代に専門機関で相談できる場があったものの、小学校に入ると府中市内では受け入れられず、福山市でも断られることがありました。結果的に、広島市まで毎月通って専門の支援を受ける状況が続いています。こうした負担は保護者にとって非常に大きく、発達特性を持つ子どもに対する教育環境の整備が急務だと感じています。</p> <p>例えば、授業中に先生が書いた内容をノートに写すことが難しい学習障害の子どもに対して、タブレットを活用し写真を撮ることを提案した際、「その目的では使えない」と断られる場面もありました。しかし、学びの機会を平等に提供するという意味では、松葉杖や車椅子が必要な子どもにそれを提供するように、発達特性を持つ子どもには適したツールや環境が必要だと思います。こうした取り組みを教育委員会として進めていただければと強く願っています。</p>

	<p>また、上下高校についてですが、今年度 13 人の入学者を確保したという成果が示されていますが、持続性が課題だと思えます。私の子どもとも話している中で、「空き教室がたくさんある」と聞きました。この空き教室を活用し、アーティストのアトリエや地域の人々が手作りした作品を展示する場にするなど、地域全体で活用する仕組みを作ることで、生徒や地域住民だけでなく観光客も訪れるような「学びと交流の場」を形成できるのではないかと思います。コミュニティ・スクールの高校版を取り入れた上下高校の新しい可能性を考えるべきではないかと感じています。</p> <p>さらに、府中市には地域特有の魅力がたくさんあります。例えば、大型家畜と触れ合う牧場があり、発達特性を持つ子どもたちにとって貴重な人格形成の場になり得ます。しかし、こうした魅力が外部に伝わっていない状況があります。移住を検討する人々に向けた府中市の強みを発信するページや、SNS を活用した広報が不足しており、それが地域の可能性を十分に伝えられていない理由だと感じています。府中市の教育や地域資源の魅力をわかりやすく発信する取り組みが求められていると思います。</p> <p>今後、子どもたちの学びを支えるための環境整備や、府中市の魅力を外部に伝える情報発信を強化し、多くの人々に「住みたい」「学びたい」と思ってもらえる町づくりを進めていただけることを期待しています。</p>
議長	最初の発達障害の話は福山にセンターを設けて、連携中枢都市圏で一緒に運営するという話があったと認識していますがどうでしょうか。
市長	こどもが多く待ち時間が生じているという課題はありますが、議長がおっしゃられたとおり連携中枢都市構想の一環として、子どもの発達障がいに関する相談・診療を行う「こども発達支援センター」は圏域の市町村が共同で運営しています。また昨年 4 月から児童精神科と精神科を開設して、さらに診療や支援を充実させています。
委員⑨	発達障害に関する診察を受けるまでに、およそ 8 か月待ちという状況があります。そのため、来年小学校に入学予定の子どもを持つ保護者は、小学校入学のずっと前、保育所の年少児くらいの段階で予約を入れる必要があるのですが、保育所時代はまだ発達特性が分かりにくいことが多いです。特に発達障害については、小学校に入学してから初めて明らかになるケースも少なくありません。そこで、早期発見につながる取り組みを地域として進めることができれば、それが府中市の魅力の一つとして位置付けられるのではないかと思います。
市長	今年から、これまで年長の段階で行っていた特性のある子どもを見つけ

	<p>る取り組みを、1年早めて5歳児を対象に始めています。このように早期発見を進めることで、発達特性を持つ子どもへの支援をより充実させたいと考えています。また、びんご圏域で福山とも連携しながら進めている取り組みもあり、順番待ちの課題はあるかもしれませんが、福山とも協力しながら方向性を模索していければと思っています。</p>
<p>委員⑩</p>	<p>7ページのKPIについてですが、学力テストの令和7年の目標値として「80」という数字がありますが、この数値が全国平均との比較でどのような状況なのか、成果が見える形で示されることが重要だと感じました。また、子育てステーションの利用者数についても、多いから良いという単純な評価ではなく、実際に利用されている方々の満足度をしっかり聞き取った上で、施策の方向性を考えるべきではないかと思います。例えば、子育てニーズに関して、12ページに記載の内容を見ると、「あったら良いもの」と「なくてはならないもの」という区別をしっかりと議論し、それを基に計画が作られているかを確認したいと思います。特に、実際に子育て支援を利用されている方の意見をどの程度反映しているのか、そのプロセスが重要だと感じています。</p> <p>また、ヤングケアラー支援のような取り組みや子育て支援も重要ですが、高齢者が生き生きと暮らしていくための支援もまた大切だと思っています。例えば、高齢者がヤングケアラーへの支援に関わる仕組みを作ることによって世代間のつながりが深まり、地域全体の活力が高まるのではないのでしょうか。さらに、デジタル技術を活用した中長期的な取り組みも検討することで、今後3年から5年をかけて新たな価値を創出することが可能だと感じています。</p> <p>次に、府中市の教育環境についてですが、小中一貫教育が非常に充実していると感じています。これを高校教育にも拡大していければ、府中市の教育環境がさらに魅力的になるのではないかと思います。その可能性についてお伺いしたいです。</p> <p>また、子育てや教育環境を充実させるには予算が重要となりますが、ふるさと納税の仕組みを活用した取り組みも興味深いと思います。商工会議所では、生産者を中心に新しいサービスのアイデアを考える動きがありますが、府中市役所も外部から見たユーザー目線で「寄付したくなる商品」を検討する機会を設ければ、多くの人から寄付を集めることが可能ではないのでしょうか。ユーザーの意見を吸い上げる場を作り、具体的な商品やサービスの開発につなげる取り組みがあれば、ふるさと納税を通じて地域の財源を確保し、教育や子育て環境の充実に活用できるのではないかと感じています。</p>

	<p>以上が私の意見ですが、これらの提案が府中市の教育や子育て環境、さらには地域の魅力向上につながるような取り組みとして進められることを期待しています。</p>
教育長	<p>私もこのデータを見て、最初は驚きましたが、学力の数値は本来ずっと上がり続けるものではありません。おっしゃる通り、直近のデータでは、中学校や義務教育学校の後期課程において全国平均をかなり下回る状況が示されています。まずは全国平均に追いつき、さらに追い越していくことが必要だと感じています。そのため、現在設定されている目標についても、次のタイミングで見直しを行い、より現実的かつ挑戦的な方向へ修正する必要があると思っています。</p>
議長	<p>KPIについてはもう少し具体性を持たせる方法があるのではないかと感じています。例えば、「全国平均を何%、または何ポイント上回る」といった形で示すことで、目標の達成度や進捗がより明確に捉えられるようになるのではないのでしょうか。</p>
委員⑩	<p>子育てに関する施策は出産から子育てまで充実していると感じていますが、移住者を迎え入れるための具体的な施策についてはどうなっているのか気になっています。ネットで調べたところ、「移住支援金」という制度があるようですが、その条件が東京圏からの移住や3世代同居・近居など、ハードルが高いと感じました。これでは、もともと府中に住んでいた方が一度市外に出て戻ってくるケースに限られてしまい、新規で府中市に移住してくれる方を対象とした施策にはつながりにくいのではないのでしょうか。新規で府中市に興味を持ち、住んでいただくための施策も必要なのではないかと考えています。</p> <p>2点目は、情報発信についてです。SNSを活用した情報発信の取り組みについては理解していますが、例えば「My 府中アプリ」のダウンロード数がどれくらいなのか、その利用状況が本当に効果的であるのか気になっています。情報発信を行うだけでは、必ずしも人々に届くとは限らないと思います。私自身、労働組合でLINEやYouTubeを活用した情報発信を行っていますが、組合員がその情報に興味を持たない場合、見向きもされないという課題を感じています。ネットの特性として、自分が欲している情報しか取りに行かない傾向があるため、どれだけ発信しても効果が薄いこともあるのではないのでしょうか。</p> <p>そのため、単に情報を発信するだけでなく、どうすればより多くの方が情報に目を向けてくれるのかという点を検討する必要があると思います。特に、新たに移住を検討する方を迎え入れる際には、効果的な発信方法が重要であり、具体的な工夫や仕組みづくりが求められていると感じ</p>

	<p>じます。欲しい情報を調べる人はネットで検索するかもしれませんが、そうでない人たちに目を向けてもらうための方法をしっかり考える必要があると思います。</p> <p>以上、移住者を迎える施策の具体化と「My 府中アプリ」の状況・効果的な情報発信のあり方についてお伺いしたいと思います。</p>
事務局	<p>移住政策についてですが、府中市は国の地方創生の流れに合わせて、お金や人材を投入し取り組んできました。しかし、現在の人口減少という現実に直面する中で、移住定住を促進するための施策にハードルがあることは認識しています。そのため、移住支援が全ての方に響くわけではないという現状も踏まえつつ、効果的な転入施策を研究し、その成果を見極めた上で予算を投じることが重要だと考えています。人口減少を抑制しつつ転入者を増やすためには、課題をしっかりと捉え、対応を進める必要があると認識しています。</p> <p>次に、情報発信についてですが、「My 府中アプリ」のダウンロード数は約1万件とされています。ただし、市内の利用者割合が分からない中で、現状では主に市内向けの情報発信に重きを置いている状況です。一方で、対外的な情報発信の範囲を広げる運用方法についても検討が必要だと感じています。また、「生の情報」をしっかりと発信していくことが重要であり、効果的な方法については、皆さんと相談しながら進めていく必要があると思っています。情報発信に力を入れるべき課題として認識し、今後の取り組みを進めたいと考えています。</p>
市長	<p>移住支援金について補足させていただきます。府中市では、桜が丘団地への人の呼び込みを目的とした政策を何年も取り組んできました。この団地に関しては、全国的な移住支援金制度にあるような、3世代近居・同居といった条件や年齢制限、移住元の制限がなく、幅広い方が支援を受けられる仕組みを整えています。例えば、府中市に移住するだけで支援金が支給されるほか、子どもがいる家庭には追加支援金がある、庭の手入れや太陽光パネルの設置などに対しても補助があり、最大で300万円ほどの支援が受けられる制度を用意しています。</p> <p>ただし、このような充実した支援制度があるにもかかわらず、十分に周知されていないのではないかと感じています。もっと積極的に宣伝や情報発信を行い、桜が丘団地の魅力や支援制度について知っていただく努力が必要だと思っています。</p>
委員③	<p>親が子どもにどのように育ててほしいかを考えたとき、最終的には「自立してほしい」という願いに行き着くのではないかと思います。優しい子に育ててほしい、やる気のある子になってほしいという具体的な希望</p>

	<p>はあっても、結局自立が目指すべきゴールだと思います。</p> <p>その点で、府中市が今年から始めた「5歳児健診」という取り組みは非常に意義深いと感じています。全国でも珍しいこの健診には、他県で医師をされている府中出身の先生がわざわざ帰ってきてくださり、保護者の相談に乗り、アドバイスを提供するなど、安心感を与える場を作ってくださいています。その先生が言われた言葉で特に印象的だったのは、「結局は納税できる子に育つかどうか」という表現でした。私たちが普段使う言葉ではありませんが、子どもがやりたいことを見つけ、それを自立した生活につなげられるようにするという意味で、とても本質を捉えた言葉だと思いました。</p> <p>子ども一人ひとりが何を望み、何が得意なのかを大人たちが一緒に考え、育てていくことが重要です。それは、教育委員会が新しい考え方を柔軟に取り入れる中で、さらにその子にとって最適な教育や支援を提供する方向へ進んでいくことだと思います。例えば、宿題を同じようにこなすよりも、好きなことに熱中する時間を優先した方がその子の将来にとってプラスになる場合、それをどう判断し、支援していくかを考える余地があるのではないかと感じました。</p> <p>しかし、現状では課題も多くあります。例えば、児童支援センターの利用が必要でも施設がパンクしているため、十分な支援が行き届かない状況があります。府中市ではこの4月から児童支援センターの開設や先生の招致など新しい取り組みを進めていますが、これらが網羅的に進められるだけでなく、困っている子どもや家庭に対して個別にアプローチすることが必要です。どれだけ計画を立てても、それが実際に支援を必要としている家庭に届かなければ、継続的な効果を得ることは難しいと感じます。</p> <p>府中市だからこそ、一人ひとりの子どもに適した対応を考え、困っている家庭や親子にアプローチする仕組みを作り、教育や支援をより実効性のある形で進めていくことが重要だと思います。これが今後の課題であり、必要な取り組みだと感じました。</p>
委員④	<p>府中市には出産できる施設があるのかどうか、現状ではないのではないかと考えています。もしない場合、近隣市町との産婦人科などの連携がしっかり取れているのが気になるところです。この点についてお聞かせいただきたいです。</p> <p>また、学力テストの数字では、小学校3年生が全国平均を下回り、6年生では上回っているものの、7年生や8年生は再び全国平均を下回る状況にあると示されています。ただ、学力の数値だけでなく、社会に出た</p>

	<p>ときに常識のある教育をしっかりと提供することも重要だと感じています。これはコミュニティ・スクールとも関連があるかもしれませんが、現状を見ると、その場その場のルールを守る力が不足している育ち方をしている子どもたちがいるように感じられます。</p> <p>例えば、高校を卒業して就職した若者や途中採用された人たちの考え方を見ると、自分中心の考え方が多く、ルールを守れない部分が目立つという課題があります。このような状況を改善するために、ルールを守る力や社会性を育てる教育を計画の中にしっかりと組み込んでいただきたいです。</p>
事務局	<p>出産できる施設についてですが、現状府中市内には出産できる場所はありません。そのため、近隣市町と連携を図っていく必要があると認識しています。例えば、びんご圏域の枠組みでは、福山市の市民病院と連携し、妊婦が地元自治体で診察を受けつつ、出産時には市民病院で対応してもらえるような制度が整っています。しかし、府中市は現在この枠組みに参加できておらず、出産を支援する体制が十分に整っていない状況です。この点については、引き続き課題として模索し、改善に向けて検討していく必要があると考えています。</p>
委員⑫	<p>出産についてですが、4ページに記載されている産後ケアや妊産婦支援に関する内容について触れたいと思います。産後ケアについては、受け入れる医療機関や利用料の問題など、いくつか課題があると感じています。ただ、これらの課題を踏まえた見直しを行う必要があるのではないかと思います。産後ケアや妊産婦支援に対するニーズがないということはないと思いますので、この点をどのように検討されているのか、お伺いしたいです。</p> <p>次に、学力・学習状況調査におけるKPIの設定についてですが、冒頭の説明では「KPIの見直しを考えている」とのことでした。この点について、前回の産業分野の議論とも関連しますが、第6回の審議で示される内容になるのか、それとも戦略素案の中で審議されるものなのか、具体的な計画や進捗についてお聞かせいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>妊産婦支援についてお話しします。産後ケアの目的は、お母さんが出産後に体調や心身の不安を抱えることがあるため、その状態が子育て環境の整備を妨げないように支援することにあります。医療機関で数日間体調を整えることや、単なるリフレッシュだけでなく、養育環境を守るためのセーフティネットとしての役割を担っています。市内に産科がない現状や、利用者が少ないという点が課題になっていますが、セーフティネット的な機能を持つ事業としての重要性は認識しています。</p>

	<p>また、分娩に関してですが、市内に産科がないため直接的な対応は難しいものの、健診を通じたサポートを行い、必要な場合には近隣の医療機関との協力を進めています。さらに、ドクターがいない現状を補うため、助産師による相談窓口を設置し、出産に関する不安や悩みを解消する取り組みも始めています。この助産師によるサポートは、お母さんの不安を軽減し、一定の効果を挙げていると感じています。</p> <p>府中市では、直接的な大きなニーズがある部分と、少ない中でも必要性のある部分の両面を捉えつつ、周辺からのサポートを強化しながら対応を進めています。今後も多方面からできる支援を検討し、妊産婦や子育て家庭を支えていきたいと考えています。</p>
委員⑫	<p>子どもの予防的見守り支援についてですが、これまでの評価を見ると、ニーズや費用対効果の項目がすべて△となっている状況です。昨年度に枠組みを作り、今年度から運用が始まった取り組みだと思いますが、まだ具体的な成果や効果の検証が進んでいないために△評価となっているのではないかと推察しています。この評価が示す意味について詳しく伺いたいと思います。</p>
事務局	<p>予防的支援についてお話しします。虐待が実際に発生した場合には、子ども家庭センターでの保護対応が行われますが、府中市ではその一手手前のリスクを抱える家庭を対象に予防的支援を行う取り組みを今年度から開始しました。これまではシステム構築に費用をかけて準備を進めてきましたが、まだ具体的な実績が出ていないため、評価が△となっている状況です。</p> <p>この事業では、AIを活用して税情報や家庭状況などさまざまなデータを集約し、リスクのある家庭を特定する仕組みを作っています。そして、市の市長部局だけでなく、教育委員会や学校とも連携しながら、リストアップされた家庭に対して適切な対応を進めています。今年度からは、保育所などで聞き取りを行い、実際の状況を確認する段階に入っています。</p> <p>この取り組みはまだ始まったばかりであり、今後さらに実績を積み上げて効果を検証していく必要があります。虐待に該当するケースが少ないことを確認しながら、リスクがある家庭に寄り添い、予防的な支援を充実させていきたいと考えています。現段階では発展途上の事業であることをご理解いただければと思います。</p>
委員⑦	<p>府中市の子育て支援について、市民の方々から話を伺う際に「子育て支援は充実しているけれど、出産できる環境が整っていない」という声を必ずといっていいほど耳にします。府中市民病院では、医師を含む医療</p>

	<p>関係者を確保できれば対応可能な体制が取れるという説明を以前伺いましたが、現実的には医師や医療スタッフの確保が非常に難しい状況にあり、現時点でその環境を整えるのはハードルが高いと感じています。</p> <p>そのため、出産に関する不安を取り除く施策が重要だと思います。福山市民病院では、東部地域の周産期医療の中核病院としての機能をさらに充実させる方向で取り組みが進められています。このような動きに府中市も連携を図りながら、例えば、妊婦タクシーの利用促進や検診サービスの充実など、妊産婦の不安を軽減する取り組みを進め「出産できる環境は現時点で整っていないが、こうした連携を通じて安心を提供している」といった、市民に安心を提供するための情報を発信していくという内容も戦略の中に盛り込むことも検討していただきたいです。</p>
委員①	<p>府中市市民病院が基幹病院とされていますが、実際には府中市民にとって基幹病院は福山市民病院であると感じています。そのため、医療を広域で捉える視点を持ち、福山市民病院を正式に基幹病院として位置付けるための手続きを進めるべきではないでしょうか。府中市市民病院については、福山市民病院の補助的役割を担う方向性で考えることが現実的だと思います</p> <p>さらに、府中市から福山市に対して予算的な負担も提示し、「タダ乗り」のような形ではなく、予算を共有することで広域医療をしっかりと進めるべきだと思います。このような協力体制を整えることで、広域的に物事が進み、医療サービスの充実につながるのではないのでしょうか。</p> <p>現状では、「すべてを府中市内で完結させたい」という願望があり続けてきましたが、その実現可能性は年々厳しくなっていると感じています。これ以上その方針に固執するのではなく、広域的な医療連携の方向性に舵を切るタイミングが今来ていると思います。より現実的で、府中市民にとって安心できる医療体制を構築するために、一步踏み出すべきだと思います。</p>
議長	<p>新市に住む人でも府中市市民病院の休日診療に応じていただいているように、うまく連携できているところもあるので、そういった連携を拡充していくことができるとよりよくなっていくのではないかなと皆さまの話を聞く中で感じました。</p>
委員③	<p>子育て支援施策について、他市の事例を共有させていただきます。現在、出産に際して家族が立ち会うことが求められるケースが多くなっています。手術の可能性もあるため、家族の誰かが必ず立ち会う必要があります。核家族化の進行により主に旦那さんが対応する状況が増えています。そのため、男性が子育てに積極的に関わらなければならない場面が</p>

	<p>多くなっており、男性の育児休暇が推奨されている背景にもつながっています。</p> <p>一方で、出産の際に遠方の市外まで行かなければならない場合、家族が泊まれるホテルを提供している他市町の事例があります。この取り組みは、出産時に家族が子どものそばにいたいという願いを叶えつつ、出産に伴う不安や負担を軽減するものであり、非常に好評です。核家族化の進行に伴い、例えば3番目や4番目の子どもが生まれる際に、既にいる子どもをどうするかといった問題や、病院にずっと付き添うことができないがすぐ駆けつける必要があるなど、家族が抱えるさまざまな課題を緩和する効果があります。</p> <p>このようなホテルの提供は、多くの家庭にとって大きな安心材料となるため、ぜひ府中市でも導入を検討していただきたいと思います。この取り組みが、出産を控えた家庭に寄り添い、より良い環境を提供するきっかけになることを期待しています。</p>
事務局	<p>先ほど学力・学習状況調査における KPI の設定について質問があったかと思いますが、第6回のタイミングでお示しさせていただきたいと思っております。</p>
閉会	
○議長 とりまとめ	<p>今日の協議について、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。その中で気になった点を3つ挙げさせていただきます。</p> <p>まず1点目は情報発信についてです。今日の議論を通じて、子育て、教育、防災、観光など、情報発信がさまざまな分野に関わる重要なテーマであることを再認識しました。現在の戦略目標の4つの柱を見ると、それぞれ独立していますが、情報発信や地域コミュニティのように共通して関係する縦軸の要素があるのではないのでしょうか。この部分を整理し、戦略に反映させる必要があると感じました。</p> <p>次に2点目は、行政の役割についてです。この計画は行政が主体的に行うべきことを示していますが、「すべて行政がやります」という方針ではなく、行政が仕掛けを作り、市民や地域が主体となって動ける仕組みを考えることが大切だと思います。例えば、生涯学習大学やコミュニティ・スクールのように、枠組みを提示し、みんなで協力して取り組める方向性を示すことが重要だと感じています。また、その仕掛けにおいては役割分担を明確化する必要があり、市民や行政それぞれがどのように関わるのかを整理し、単なる表形式ではなく具体的に記載することが必要だと考えています。</p> <p>最後に3点目は広域的な連携についてです。地方創生や広域リージョン</p>

	<p>連携といった考え方はこれからも続くと思いますが、府中市としても近隣の福山市などとの関係を柔軟に築いていく必要があると思います。何が何でも自分の町に産科や医療機関を完備するという方針ではなく、近隣の医療施設と連携し、お互いの力を補完し合う方向性を考えるべきではないでしょうか。府中市民病院が福山市の病院と協力することで、より緩やかで広域的な医療ネットワークを構築し、市民の安心を提供できるような取り組みを進めていけるのではないかと期待しています。</p> <p>以上の3点について引き続き検討を進めていただき、戦略の中に反映していく必要があると感じました。本日は長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。</p>
<p>○副市長挨拶</p>	<p>今日は本当に熱心な議論をいただき、ありがとうございました。教育に詳しい方々や、コミュニティ・スクール（CS）に関わっている方々、そして親としての優しい視点で多くのご意見をいただけたことに感謝しています。</p> <p>情報発信については、今回のテーマだけでなく、行政全体において重要な要素だと感じています。その発信の方法についても、単にどこかに情報を載せるだけではなく、内容や伝え方が大切であることを改めて認識しました。この点を念頭に置きながら、進めていきたいと思っています。</p> <p>また、教育の場においても、生涯学習大学のように「学んだことを次へつなげる」という視点を取り入れながら、継続的に取り組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>今日いただいた貴重なご意見を今後活かしてまいりますので、引き続きご協力いただければ幸いです。本日はありがとうございました。</p>